

= 第16回ホスピス祭り =

「輝け！いのち」手と手をつなぎ 広がる今を大切にしよう

5月の最終日曜日 天候も梅雨前の五月晴れ 元気のいい太陽が照りつける中 第16回ホスピス祭りが 2000人を超える大勢の参加者 そして汗を流して楽しく有意義に しかも必死にがんばってくれた250人の実行委員の尊いコラボレーションで 価値ある1日をすごすことが出来ました。

当日の心のこもった飲食や遊休品・野菜等のバザー セラピードッグと触れ合ったり こどもコーナーの体験コーナー クラシックや合唱 けん玉パフォーマンス そして山の都コンサートなどのイベント各部門の活気は お祭りのテーマである“手と手をつなぎ 広がる今を大切にしよう”にふさわしく つながる心と心 そしてつなげる想いで 大勢の方々の賛同と賛美をいただきました。

有り難いことに 実行委員も遠く県外から毎年参加してくれたり 暑い中を参加者のために安全に駐車場係を務めてくれたり また 県内の大学・専門学校・高校等の多くの学生さんたちがいろいろな形でこのお祭りにかかわっていただき 一人ひとりが体と心を通して お祭りのテーマを体験できたと思います。

医療法人どちペインクリニックの医療方針である“患者のいのちに寄り添う”という大きな医療哲学は お祭りのテーマや参加者の支援の心 実行委員の魂など 総合的にそれらが融合し合っ て より一層確かなものへと燃え続けていくものと確信いたします。それが私たち支援の会の誇りでもあります。

このお祭りの後 このお祭りにかかわった多くの皆様が 今度は日常においてテーマの浸透性を丁寧にそれぞれ実践していくことが 重要なことだと思います。

なお 皆様方にご協力いただきましたバザー等の売り上げ利益の一部は岩崎けんいちさんが主宰する『カンボジアの子どもたちの未来応援チーム』と『熊本地震災害対応医療チーム』に寄付させていただきましたことをご報告いたします。

あらためて ご協力ご支援いただきました皆様方に感謝申し上げますとともに これからも 支援の会共々 医療法人どちペインクリニックに対して 暖かいご支援ご協力をお願い申し上げます。ありがとうございました。

医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会

代表 吉田 永正





2018.5.27

第16回DPCホスピス祭り

輝け！いのち 手と手をつなぎ広がる今を大切にしよう

ご支援、ご協力
ありがとうございました。





中央市在住
シンガーソングライター
岩崎けんいちさん

ホスピス祭りとカンボジア

ホスピス祭りとカンボジアが繋がった。
大切な場所や大切な人が繋がる。
思いがあるから縁が生まれる。
嬉しい出会いの連続です。

毎年参加させてもらっている玉穂ふれあい診療所のホスピス祭り、今回で16回目だそうです。

ボランティアの人たちの多さからも、みんな手伝いたい気持ちに溢れているのがよくわかります。「輝け！いのち」のもと、みんなの汗が空に昇って行くのが見えるような1日です。

以前、僕のカンボジア訪問に、ふれあい診療所の小田切佳仁さんが一緒に行ってくれました。彼のサービス精神と生きようとする気持ちを見つける能力は人一倍で、カンボジアへ行って子どもたちや日々の暮らしから感じるエネルギーに感動していました。家のない人、家族のない子どもたち、手足のない人、発展途上国の現状を目の当たりにし、言葉に出来ない多くの感情を抱き、ただただ見るだけの世界を体験、経験。きっと、仕事に大きく関わる出会いになったように思います。そして少しずつ、なにができるか考え、



医療、音楽、関わっていることからアイデアを出して実行しています。その中で、ホスピス祭りにカンボジアで訪れた孤児院の女性を招き講演をして



もらったのです。それから毎回ホスピス祭りの売上げの中から支援金を預かり、僕が訪れるタイミングで届けるようになりました。カンボジア バットンバン州 HOCノリア孤児院 岩田亮子さん。カンボジアの現状を知り、仕事を辞め単身カンボジアへ、今年で10年になるそうです。虐待される孤児などを保護し、お寺が運営する孤児院で子どもたちの未来のために尽くしています。すごいなぁと尊敬する人です！昨年病気(甲状腺癌)が見つかり日本で手術、その後もカンボジアへ戻り、子どもたちのために働いています。

今年は岩田さんの働きで、カンボジア人の中学生として初めて、単身で日本へ留学させたのです。これは快挙！ビザが容易に取れないので、すごくがんばったと思います。これをきっかけに、この中学生の世界が開けていくことを、岩田さんも願っていました。

僕がカンボジアと出会い、小田切さんが行き、

岩田さんと出会い、ふれあい診療所に岩田さんが来て講演をし、テレビ電話でカンボジアの子どもたちと会話し、毎年ホスピス祭りが開催され、売上げの一部がカンボジア バットンバン州の孤児院で役立っている。何処にいても繋がること出来るんだと証明するような出会いになっています。そこにはいつも「輝け！いのち」の合言葉が輝いています。

カンボジアの子どもたちも、一人ひとりの物語を聞けば胸が痛みますが、今があります。そして生きようとする気持ちを見せてくれます。可能性



を見せようとしてくれます。岩田さんもとても感謝していましたことを報告します！

いつの日かホスピス祭りのステージで、カンボジアの子どもと会える日を夢見ています。みんな夢を見たい、いつか光の中で幸せな涙を流したい、そんな気持ちでいっぱいです。そんな夢みたいなことも叶うのではないかなと思わせてくれる力がホスピス祭りにはあります。

ホスピス祭りの売上げの中から、縁があり出会ったカンボジアの孤児院へ支援金を届けた報告でした。ありがとうございました。

ここにいることが全ての始まり！輝け！いのち。



D P C ホスピスを 支援しませんか！

(医) どちらペインクリニックのホスピスは人間としての命の輝きを大切にします。

だれでも、いつでも、自分らしく生きることを大切にします。

支援の会では、DPC ホスピス運営のために募金活動やボランティア活動を行なっています。

そのため、広く会員を募集しています。

年会費

★一般会員 2,000 円

★賛助会員 1 □ 10,000 円以上 (個人会員、法人会員)

入会を希望される方、詳しくお知りになりたい方は、下記までお問い合わせをお願いします。

(医) どちらペインクリニックのホスピスを支援する市民の会

〒409-3815 山梨県中央市成島 2439-1 玉穂ふれあい診療所内

TEL : 055-278-5670 FAX : 055-278-5671

けん玉パフォーマンス

私たちは、作業療法士の仲間たちが集まったチームで、介護予防や発達促進などに役立てばと病院や介護施設、お祭りなどに参加させてもらっています。

今回は、素敵なお祭りに参加させて頂いて、とても楽しくパフォーマンスをすることができました！

突発的に行った大皿チャレンジにも、たくさん子どもたちが参加してくれて、大変盛り上がることができました！これをきっかけに子ども達だけではなく、大人の方々にもけん玉に興味を持って頂けたらうれしいです。

また機会があれば参加させてください。よろしくをお願いします。ありがとうございました！！

甲斐けん玉クルー



けん玉で、心わくわく

私と同じ作業療法士の仲間であり、ボランティアグループである甲斐けん玉クルーの方々を招き、けん玉パフォーマンスをして頂きました。

けん玉で活躍していることは以前から知っていましたが、実際に見るのは初めてで、私自身もわくわくして見させてもらいました。

昔の遊びとしてのけん玉だけでなく、見たこと

もない高度な技や、音楽に合わせたカッコいいストリートけん玉などを披露していただき、とても楽しめる盛りだくさんな内容でした。

技が決まると子どもから大人まで歓声があがり、大盛況なイベントだったと思います。

「輝け！いのち 手と手をつなぎ 広がる今を大切にしよう」といったテーマでしたが、患者さんも子どもや孫たちと屋台をまわったり、歌を披露した園児に感謝の挨拶をしたりと、多くの方々とながらつながりを持つ機会となつてよかったなあと思いました。

今後も、こんなあたたかいお祭りが続いていくよう願っています。

玉穂ふれあい診療所
作業療法士 野 澤 由 香



玉穂ふれあい診療所に魅せられて

東京都 小 塚 麻 奈

今年のホスピス祭りも晴天に見守られながら、たくさんの命が輝いていました。年を積み重ねるごとに笑顔の輪が広がっていることを実感します。私にとって、皆様にとっての温かい居場所を創り上げてくださる多くの方々に感謝しています。

診療所との出会いは4年前、私が通っていた群



馬の大学で長田師長さんの講演を聞いたことから始まりました。そして「この医療・この看護だ」と心を動かされ、自分の目でみて肌で感じたいと思い、気付いたら足を運んでいました。訪れてみないと分からない、この幸せに

包まれる感覚！私の原点でもある「自分の大切な人にしてほしい看護を提供する」という志を、まさに体現した世界が広がっていました。そして、ホスピス祭りは、診療所と地域を繋ぐ大切な架け橋を担っていると感じました。生も死も、寛大な心で受け止めてくださる居場所があるなんて、何と安心できることでしょうか。ここで出会わせていただいた、このご縁は本当に一生ものだと思います。

私は今、診療所への熱い思いを抱きながら、東京の急性期病院に勤めております。一見、対極にあるように思える環境の中でも、相手を思う気持ちに変わりはありません。感性を磨き、経験から培われた引き出しを糧にして、自分にできる形で患者さんやご家族に還元していきたいです。

来年もホスピス祭りに参加するために山梨に帰ります。たくさんの尊い出会いをありがとうございました。

『世界中の人間は「知り合いの知り合い」を

たどっていくと6人目につながる』（仮説「六次の隔たり」理論より）

中央市 櫻 田 良 雄

山梨大学医学部附属病院で同い歳の妻を亡くし、心の行き場を失い彷徨っていた私が、ふれあい診療所の「忘れな草の会」を見つけ、門を叩いたのは3年前の事で、全くご縁が無かったにも拘わらず私を快く迎え入れてくださいました。「忘れな草の会」の温かい雰囲気の中、諸先輩方の体験や励ましの言葉に、いつしか心の荷が軽くなっていきました…。

何度か出席するにつれ、受けたご恩をなんとか形でお返しできないかと、今回のホスピスマつりに微力ながら参加させて頂きました。

驚いたのは統率され一丸となった多数のボランティアさん達。プロが作るイベントとしか思

えませんでした。そこには人を通して「命の尊さ」を繋げて行くという共通理念の元、熱意と敬意を持って参加する方々の意識の高さを感じました。私もこの様な場・空気に触れさせて頂き「繋がり」の大切さを心から感じました。

暑い中での駐車場係・お餅つき係を始め多くのボランティアさん、スタッフさんに改めて感謝申し上げます。



DPCホスピス祭りへのご協力に感謝申し上げます。

第16回DPCホスピス祭りは、好天に恵まれ沢山の方々のご参加をいただき大成功でした。

実行委員の皆さまには、準備段階の実行委員会からご協力をいただき、当日は炎天下での駐車場係などもお受けいただき、本当にありがとうございました。

DPCホスピス祭りは、緩和ケア機能を持つ有床診療所「玉穂ふれあい診療所」の建設にあたり「その様な巨額の資金を要する事業は、個人の力ではとうてい無理だが、多くの人々に支えられれば実現可能になる」の思いを元に、昭和町清水新居の「どちペインクリニック」駐車場でバザーを中心に第1回目を開催しました。2階ホールの実行委員会には沢山の人々が結集し、いろいろとアイデアが出されました。

第2回目以降は現在地の玉穂ふれあい診療所で行っています。ホスピス祭りには業者は入っていません。すべて、支援の会とDPC職員を中心とする実行委員の皆さんの手で行われています。実行委員は自分で考え、「自分の祭り」として参加していただいています。「今年是这样だった。よし、来年はこうやるぞ！」と。

それだから、この祭りが年々大きくなっているのだと思います。

私たちが(医)どちペインクリニックの活動は医療を中心としますが、地域の皆さまと共に歩み、共に生きていくことだと思っています。

今後ともよろしくお願い致します。来年もまた、DPCホスピス祭りを盛大にやりましょう。

2018年7月

医療法人どちペインクリニック
理事長 **土地邦彦**



医療法人どちペインクリニック
理事長 **土地邦彦**



編集後記

輝け！いのち ～手と手をつなぎ 広がる今を大切にしよう～

5月27日(日)好天の下、ホスピス祭りが多くの来場者に参加いただき、盛大に行われました。ご支援ご協力ありがとうございました。

今年のお祭りでは「ふれあい写真館」と銘打ち、診療所の日常を映した“素敵な写真たち”が、職員たちのその折感じたコメントとともに飾られました。「いのちの輝き」の瞬間を多くの皆さんに届けられたと思っています。また、感想などお聞かせください。